
レポート課題の変更について

『レポート課題集A 2019』 p. 14～15にてご案内しておりました客観式レポートですが、次の3科目のレポート課題において論述式レポートへ変更させていただくこととなりました。

- ・「福祉社会学」 3・4単位め
- ・「知的障害者福祉論」 2単位め
- ・「国際福祉論」 1・2単位め

客観式レポートのご案内から変更となり大変ご迷惑をおかけいたしますこと、誠に申し訳ございません。

なお、変更となりましたレポート課題につきましては、下記をご参照くださいようお願い申し上げます。

● 「福祉社会学」 3・4単位めレポート

3単位め	現代社会における「物質」志向から「脱物質」志向への変革と「豊かな社会」との相互関係について考察しなさい。
4単位め	国民の生活周期に生起する新たな社会病理現象（社会的ひずみ現象）に対して、今後の社会福祉の役割と機能について考察しなさい。

3単位めアドバイス：

テキストをよく読んで現代社会がどのように変化してきたかを、人口、産業・職業、階級・階層などの諸要素を考えながら、本課題である「物質」志向から「脱物質」志向への変革と「豊かな社会」との相互関係について考察してください。とくに、この課題では、次の視点をふまえながらレポートを作成してください。

- (1) 1960年代からの高度経済成長にともなって、産業・職業構造の高度化、ホワイトカラーの増加、所得水準の上昇、生活水準の平準化がみられ、国民生活意識のなかには自己の所属している階級を中流階級とみなし、それが「一億総中流意識」として確立されたこと。
- (2) その一方では、「働き蜂」「エコノミックアニマル」「カローシ」という造語が生まれ、生活意識にも陰りがみえてきました。また、社会も産業社会から「脱」産業社会への転換という社会変化がみられたこと。
- (3) その根本的な社会変化が市場的、経済的豊かさだけでなく、生活次元の豊かさが重要な要素として、「モノ」から「こころ」へ、経済から文化へ、成長から成熟へ、産業主導から生活主導へと傾向が強まったこと。
- (4) その社会的背景には、国民総生産の増大は、必ずしも人々の暮らしや福祉および真の「豊かさ」に貢献したとは限らないことを国民は意識し始め、あらためて、人間性の疎外と対比するかたちで「生活の質」が問われていること。

要するにこの課題は、社会福祉を学ぶにあって、最も根本的な課題でもあり、社会福祉の援助過程を考えるにあたってとても大切な課題といえるでしょう。いずれにしましても自分自身の身近な生活や暮らしを見詰めなおすことによって、レポートを作成してください。

4単位めアドバイス：

テキストをよく読んで、本課題に取り組んでください。この課題は、これまで学んできた福祉社会学をまとめる意味合いも込めて出されている課題です。とくに、わが国における社会福祉の現状をよく考えながら、社会福祉の諸問題に対する社会学的アプローチについて整理するとともに、今後の社会福祉の役割と機能について論述してください。

社会福祉の意味には、狭義的な視点からの社会福祉と広義的な視点からの社会福祉のとらえ方によって、さまざまな意味があります。戦後の社会福祉の歴史は、国民の生活の変化にともなって、「福祉模索期」、「福祉発展期」、「福祉見直し期」、「福祉転換期」を経て、新たな社会福祉を構築しようとしています。特に、近年では社会福祉基礎構造改革によって、従来の社会福祉制度が見直され、新しい福祉社会のパラダイムが構築されようとしています。これらの社会福祉の動向は、国民の日常生活や社会生活に生起する社会問題に対応するために展開されてきた社会福祉の歴史ともいえます。しかし、本課題では、単に社会福祉の歴史の変遷を論じるだけでなく、社会を構成する個人や集団といったさまざまな構成要素をふまえながら、レポートを作成することが大切です。

テキストにも記述されているように、「社会福祉は、さまざまな生活場面における諸問題に直面する人々を対象としてその解決のために、人権の尊重と生活の質を高めるように制度的・社会的資源を動員する。社会学の社会福祉に対する関係は、社会福祉の諸問題を制度や組織の次元だけではなく社会を成立させる個人の行動や規範を分析することで、福祉問題の総合的な解決視点を提供する。」と述べられています。まさに本課題は、社会的な視点から社会現象として社会福祉をいかに理解し、生活問題を規定している諸要因やそれらを相互連関について考えながら、今後の社会福祉の役割と機能について論じることが重要となります。

受講生の皆さんは、テキストを読んで十分に理解を深めるとともに、自分なりの社会福祉観について考えて、レポートを作成してください。

● 「知的障害者福祉論」 2 単位めレポート

2 単位め	地域社会における知的障害者の在宅福祉の現状と課題について、具体的なケースを取り上げながら考察しなさい。
-------	---

2 単位めアドバイス：

テキスト第 6 章から第 8 章（旧テキストの第 5 章から第 7 章）をよく読んで地域福祉の意味を理解すると同時に知的障害者の生活状況が時代の変遷とともにどのように変化してきたかを、過去の在宅福祉政策なども踏まえながら考察してください。

今後の知的障害者福祉は、法改正によって具体的な中身と進捗状況が問われることとなります。そして、単に施設を中心とした生活環境整備だけではなく、地域社会も取り入れた施策を具現化していく地域社会体制づくりが確立しなければなりません。とくに、知的障害者に対する人権・権利侵害の事件などは全国各地で起きており、また、地域環境の相違によって、福祉サービスを楽しむものと享受できないものが存在しているこの事実をどのように理解するかが大切です。その社会的背景には、改革の理念として謳われた「個人が人としての尊厳をもって、家庭や地域の中でその人らしい自立した生活が送れるように支える」という考え方から乖離した知的障害者に対する誤解、偏見、差別が根強く残っていることもこの課題を考察する根本的な課題の一つといえるでしょう。

いずれにしても、本課題においては具体的な知的障害者の生活や暮らしのケースなどを取りあげながらレポートを作成してください。

● 「国際福祉論」 1・2 単位めレポート

1 単位め	「国際福祉」の理念について論じてください。
2 単位め	グローバリゼーションと国際福祉について論じてください。

1 単位めアドバイス：

国際福祉は、国際社会の福祉という意味を持ち、世界的空間で考えられるべき福祉と解釈してよく、全人類の幸福及び全人類のよりよい生活を追及する学問として、国際福祉の分野があります。国際福祉の捉え方には、多面的な視点がありますが、それを踏まえて、「国際福祉」の理念を教科書に書かれている文章を理解して論述してください。なお、国際福祉研究者の代表的な人物としてミュルダールとロストウを紹介します。

○ミュルダール (Myrdal, K. G. スウェーデンの経済学者)

南北問題や福祉社会論について、国際的視野から発言している。『福祉国家を越えて』(1960) 『豊かさへの挑戦』(1962)

「世界の福祉を増進させるためには、福祉国家を越えて世界を福祉社会群に分けることを提唱した。そして先進国社会群が開発途上国社会群を援助することによって、世界の福祉は向上すると説いた。」
ミュルダールの福祉思想には、ヨーロッパ思想の優位性が読み取れる。

○ロストウ (Rostow, W. W. アメリカの経済学者) 『経済成長の諸段階』(1960)

経済成長論を基礎にした発展段階説を展開し、近代化論＝産業化論の代表的論者。

「思想よりも経済成長の必要性を説いた。開発途上国の人々の生活が質的に向上するためには、農業基盤を中心とする伝統的社会から離

陸して、工業化された近代化への移行が必要と主張した。また、工業化による経済開発を促進し国民生活を向上させるためには、近代的な機械や設備に対応しうる教育を国民全体に行う必要があると説いた。」

2 単位めアドバイス：

(1)『グローバリゼーションと国際社会福祉』第1章を読んでください。(2)昨今のグローバリゼーション（グローバル化、地球規模化）について説明し、(3)そこに起きている具体的事例（例えば地域紛争や飢餓、国際経済協力など）をひとつ検証しながら、(4)国際福祉と国家との関連について論じてください。